



オネゲルとスナール(3)

～音楽劇《ユディット》を中心に～

近藤秀樹

2019年9月1日(日) 11:00

南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500



https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/d/d6/Arthur_Honegger_b_Meurisse_1928.jpg/800px-Arthur_Honegger_b_Meurisse_1928.jpg

1. オネゲルとスナール社 [おさらい]

- アルテュール・オネゲル (Arthur Honegger 1892-1955)
スイス国籍、フランスで活躍。フランス六人組の一翼を担う。
5曲の交響曲や《パシフィック 231》等の管弦楽曲によって知られる。
オラトリオ、バレエ、室内楽曲等にも充実した作品を残す。
ex. 《ダビデ王》《火刑台上のジャンヌ・ダルク》《クリスマス・カンタータ》etc.
晩年は、第二次大戦、米ソ対立等により、人類と音楽文化の未来を悲観。
Cf. 『私は作曲家である』(音楽評論家ガヴォティとの対談を本にしたもの)
- オネゲルとスナール社
オネゲルの作品の多くはスナール社より刊行。
スナール室内楽シリーズにも、多数のオネゲルの作品が含まれる。
フランスの音楽雑誌『ルヴュ・ミュージカル』でさかんに広告。看板作曲家だった？

Piano		Chant et piano	
<i>Le cahier romand</i>	1923-2	<i>Trois poemes</i>	1922-2
<i>Chant de Joie</i>	1924-2	<i>Six poesies</i>	1924-1
<i>Pacific 231</i>	1926-1	<i>Judith</i>	1925-2
<i>La neige sur Rome</i>	1927	<i>Trois chansons</i>	1927
Violon et piano		Ensemble	
<i>Deuxieme Sonate</i>	1924-2	<i>Rhapsodie</i>	1923-1

2. オネゲル《ユディット》 *Judith*

- 当初は劇の伴奏音楽として作曲(1924-25 年)。
- 全 3 幕。台本はルネ・モラ (René Morax, 1873-1963)。
- 旧約聖書外典「ユディット記」にもとづく。
- 初演で主役を歌った歌手、クレール・クロワザ (Claire Croiza, 1882-1947) に献呈。
- 1925 年にスイス・メジエールのジョラ劇場で初演。

左から、クレール・クロワザ(ユディット役)、オネゲル、ピエール・アルコヴェル (ホロフェルネス役)。写真は Kate Espasandin: *Musical Modernism at the People's Theatre* より [参考文献表]。



▲ 1925 年、ジョラ劇場での上演の一齣。

写真は Kate Espasandin: *Musical Modernism at the People's Theatre* より

のちに二度にわたって改作。

- ① オラトリオ。1926 年にロッテルダムで初演。
＊ 芝居の部分はナレーションで代替。
- ② オペラ。1926 年にモンテカルロで初演。
＊ 芝居の部分もすべて歌手が歌う。

ユディット記

アッシリア王ネブカドネツァルは、メディア王との戦いに際して自分に協力しなかった諸地域を討伐するため、軍隊を差し向けた。ユダヤに派遣された軍隊の司令官はホロフェルネスという男で、彼はベトリアという町を包囲した。

ベトリアは水源をたたれ、町の指導者オジアは降伏を決意するが、ベトリアに住んでいた美しい寡婦ユディットが一計を案じる。

彼女は美しく着飾ってホロフェルネスの陣営に向かい、エルサレム進軍の道案内を買って出た。ホロフェルネスは喜んで彼女を迎え入れる。やがて酒宴が催され、ホロフェルネスが泥酔して寝ている隙に、ユディットはホロフェルネスの短剣を取って、彼の首を切り落とした。

ユディットは侍女とともに、敵将の首を携えてベトリアの町へ戻り、事の次第を報告した。やがて司令官が殺害されたことを知った包囲軍は激しく動揺し、この機を逃さずに出撃したユダヤ人は、敗走するアッシリア軍を打ち破ったのだった。



ルーカス・クラナッハ『ユディット』(1530)

[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lucas_Cranach_d.%C3%84._-_Judith_mit_dem_Haupt_des_Holofernes_\(Staatsgalerie_Stuttgart\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lucas_Cranach_d.%C3%84._-_Judith_mit_dem_Haupt_des_Holofernes_(Staatsgalerie_Stuttgart).jpg)

室内楽シリーズとの関連

- 第1幕第3曲〈祈り〉Prière が、スナール室内楽シリーズに収録(1925年第2期・歌曲編)。
- ・主人公ユディットが、敵軍の包囲から街を救うため敵将ホロフェルネスのもとに赴く決意をし、神に加護をもとめて歌う。

No.3: Prière

第3曲 祈り

Seigneur. Dieu de mes pères,
 Ecoute-moi et viens à mon secours !
 Je ne suis rien qu'une humble créature,
 Mais tu entends la prière des faibles.
 Seigneur, lève ton bras comme aux siècles passés,
 Abats leur force, écrase leur puissance,
 Que l'orgueil de cet homme éprouve ta colère !
 Donne à mes yeux la splendeur du désir,
 Fais que son coeur se trouble à mon sourire,
 Et qu'il se prenne à mes douces paroles;
 Car je suis femme et faiblesse est mon arme !
 Sauve mon peuple avec ton sanctuaire !
 Je suis l'offrande et je suis la victime.
 Tu es le Dieu du ciel et de la terre,
 Le seul Dieu, l'Eternel.

主よ、私の父祖たちが崇めた神よ、
 私の願いを聴いて、私を助けに来てください、
 私はつましい被造物にしかすぎませんが、
 でも、あなたは弱い者の声をお聞きになります、
 主よ、ここ数世紀のように、力をふるってください、
 彼らの軍勢を蹴散らし、彼らの権勢を挫いてください、
 あの尊大な男があなたの怒りを知るように！
 私の双の目に欲望の輝きをお与えください、
 あの者が私の微笑に心を乱すように、
 そしてあの者が私の甘い言葉を真に受けるように。
 私は女であり、弱さこそが私の武器なのですから！
 我が民をお救いください、あなたの聖域によって、
 私は捧げものであり、いけにえなのです、
 あなたは天と地の神、
 唯一の神、永遠なる者。

Andante
Très modéré ♩ = 60

JUDITH

Andante
Très modéré ♩ = 60

PIANO

p

Seigneur — Dieu de mes pères é -

- coute moi — et viens à mon se - cours

Je ne suis

p

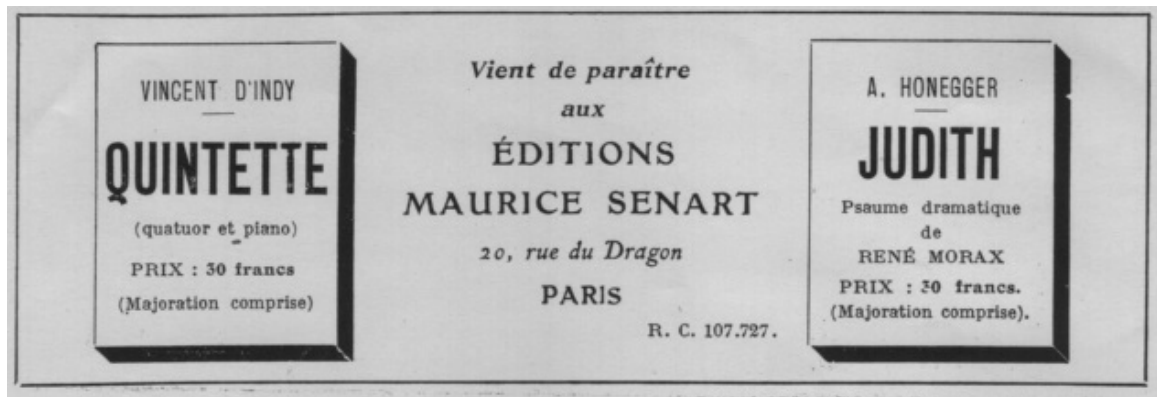
▲ オネゲル《ユディット》より〈祈り〉冒頭部分

スナール社は、音楽雑誌『ルヴュ・ミュージカル』に、たびたび《ユディット》の広告を掲載。

- 1925 年 6 月号

近刊としてオネゲル《ユディット》とダンディ《ピアノ五重奏曲》を並べて広告。

※後者は「スナール室内楽シリーズ」1925 年第 1 期・アンサンブル編の一環として出版。



- 1926 年 2 月号

《ユディット》歌劇版の世界初演（モンテカルロ歌劇場、2 月 13 日）に合わせ、ヴォーカル・スコアを宣伝

- 1928 年 5 月号

《ユディット》オラトリオ版のパリ初演(5 月 18 日)に合わせ、ヴォーカル・スコアを宣伝。

3. 《ダビデ王》から《ユディット》へ

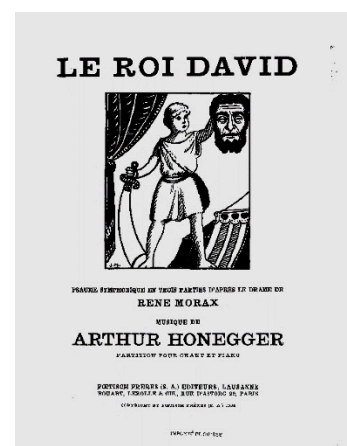
オネゲル《ダビデ王》 *Le Roi David*

- オネゲルの出世作。
- スイス・メジエールのジョラ劇場で上演される宗教劇の伴奏音楽として書かれた。
- 台本はルネ・モラ。弟の画家ジャン・モラが舞台装置と衣装を担当。
- 1921 年 6 月 11 日に初演。

- 1923 年にオラトリオ形式へと再構成。

通常の編成の管弦楽のために編曲が行われる。

- オラトリオ版の楽譜はローザンヌの出版社 Fœtisch Frères から出版。



オネゲル《ダビデ王》楽譜の表紙 ►

《ダビデ王》と《ユディト》

共通点: 旧約聖書にもとづく宗教的作品。

最初はジョラ劇場で上演される劇の伴奏音楽として作曲された。

相違点: 《ダビデ王》は現代的な手法を含みながらも、簡潔率直で分かりやすい音楽

《ユディト》は音楽がより個性的、前衛的で、演奏も理解も難しい。

Ex. 《ダビデ王》終曲(〈ダビデ王の死〉)

→ 《ダビデ王》ほどには《ユディト》は成功しなかった。

オネゲルとモラ

オネゲルとモラは《ダビデ王》以降もコラボを続けた。両者による作品は以下の通り。

1921 年	《ダビデ王》
1925 年	《ユディト》
1926 年	人形劇《アンデルセンの「人魚姫」》
1931 年	喜歌劇《ムードンの美女》 <i>La Belle de Moudon</i>
1944 年	劇音楽《シャルル勇胆公》 <i>Charles le Téméraire</i>

おわりに

詩人ポール・クローデルとの出会い

舞踊家イダ・ルービンシュタインからの注文

→オネゲルの代表作、オラトリオ《火刑台上のジャンヌ・ダルク》(1935 年)の誕生

○主要参考文献

アルテュール・オネゲル『私は作曲家である』吉田秀和訳、音楽之友社、1970 年

ジャック・フェショット『オネゲル』天羽均訳、音楽之友社、1971 年。

Kate Espasandin: Musical Modernism at the People's Theatre: Arthur Honegger and René Morax's Judith at the Théâtre du Jorat, Schulich School of Music, McGill University, Montreal, 2013.